

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500012		
法人名	特定非営利活動法人 まごころネットワーク		
事業所名	おおたかの森グループホーム あぜみち		
所在地	千葉県流山市大畔534		
自己評価作成日	令和 6年 2月 16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	令和 6年 3月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の生活のご様子など日報やミーティング(カンファレンス)などから、情報を集めて一カ月分まとめたものをご家族に送付し、お知らせして好評をいただいている。 ・四季折々の催しや様々なレクリエーション、単調な毎日にならないように配慮している。(外部の状況を考慮して、可能な範囲での外出等を行っている。) ・同敷地内の別事業所との交流(可能な範囲で)を行い、ご利用者様の様々な活動、触れ合いを図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームはつくばイクスプレス・おおたかの森駅に近く、急激に都市化された地域で小中学校や美術館のあるエリアに立地している。2階建の建物で、1階にデイサービスセンター、2階にグループホームがあり、同一敷地内に小規模多機能ホームもあり、特定非営利活動法人が複合的に運営を行っている。利用者は9名で、介護度の中程度の方が多く、清潔にされた室内、季節の花などが飾られた廊下や壁に囲まれて暮らしている。ご家族には「お便り」や「入居者報告書」を毎月発送して信頼を得る一方で、管理者と職員が一丸となって「笑顔で明るくオープンに」をモットーに四季折々の催しものやレクリエーションなどを行いながら日々介護の実践に励んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 特定非営利活動法人 まごころネットワーク	”笑顔で明るくオープンに”というグループホームとしての理念を掲げ、居心地のいい空間作り、生活環境作りにも努めている。	法人の「安心とまごころをもって支援サービスに努めてまいります」の理念の具現化として「笑顔で明るくオープンに」を掲げ、職員に朝に唱和してもらい、適宜職員に確認している。事務室内に掲げている。	理念などは職員と利用者やその家族にホームのサービスの姿勢を示すものであるため、事務室の外の誰もが目に触れる場所に掲示することにより理解が深まると思われる。
2	(2)	おおたかの森グループホーム あぜみち 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校との交流会や施設案内(体験)は行っています。また、介護実習生の受け入れも行っている。	従来から町会長や民生委員を運営推進会議の委員として迎え、地域とのつながりを持っている。最近コロナ感染で一時途絶えていた、おおぐろ小学校の生徒や父兄との交流や傾聴ボランティアなどの受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃の介護実践の内容や出来事等を運営推進会議メンバーや御家族宛に書面で報告している。また、実習生や見学に来られた方にも、現状のホーム(施設)の説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に出席された方々や、様々な立場の方々からお電話やメール等で貴重なご意見やご指摘を頂き、反省・改善材料として今後の課題として、取り組んでいくようにしている。	運営推進会議はコロナ禍でも年6回開催しており、現在に至っている。運営推進会議において質問された内容や意見については議事録に残して今後のサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、市の担当職員の方からお電話やメールなどでアドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止への取り組み(指針等)を運営推進会議で報告している。また身体拘束廃止取組委員会を設立して、運営推進会議での報告や職員研修を実施して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年4回身体拘束適正化等検討員会で身体拘束に関する様々な研究・検討を重ねるとともに、職員勉強会や職員研修で職員に理解を深めている。その内容について運営推進会議で報告しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修への参加(研修内容の共有)や内部の研修を通じて、学ぶ機会を持つと同時に話し合いを通じて職員のストレス管理にも気を付けるようにしている。また、定期的に内部研修を実施しています。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、個々に学んだことを他の職員にも伝えて活用できるようにしている。定期的に研修内容を報告しています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時でも行っているが、随時の疑問点には説明を付け加え、理解を図っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や御家族からの要望(苦情を含めて)に関しては、可能な範囲で早急に取り組む形を取っている。	毎月発行されるお便り「あぜみち」や入居者報告書に日頃の様子を掲載しお知らせしている。家族の訪問が月1回以上が半数、3ヶ月に1回以上が半数程度であるので、来訪時に話を聴き、訪問回数の少ない方には電話などで確認して、運営に反映するようにしている。	今後、行事予定・ホームの方針・職員紹介などの情報を工夫して発信されれば、家族からの反応が更に良くなると思われるので、ご検討頂きたい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の月例ミーティングで意見提案を出す他、気付いた時点で話し合い、反映させるようにしている。また、可能な範囲での解決策や対応策を話し合っている。	意見や提案のうち、特に介護に関するものについては適宜職員から報告されるあがってくるが多いので、その意見について他の職員の意見を聞いて整理し、それをミーティングにかけて、反映するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に給与の見直し等、やりがいに通じる職場環境に気を配っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個性、適正を考慮したうえで研修を受けさせ、また、法人内の研修も奨励している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・『グループホーム連絡会』や『入所施設部会』など通じて意見交換、情報交換などを行っている。 ・リモート研修等で知り合った人達とSNS等を通じて連絡を取り、意見交換や情報交換をしている。			

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から発せられる言葉、表情、仕草などをよく観察し、丁寧な対応や受容に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お電話やメールなどで時間をかけて傾聴し、御家族の心の安定に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスを含めたベストな方法を探るため、色々なアドバイスもさせていただいている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家族の様な気持ちになって、声をかける関係作りができています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の”生活の様子”をお知らせすることによって日々様子を気にかけてもらい、共に支えていく事を確かめる材料(ツール)にしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・状況や時間帯等を考慮して、可能な範囲で施設外や中庭・畑などを散歩する等を行っている。 ・ご来館(面会)の際は、感染症対策を実施した上(御理解していただいた上)で面会を実施している。	旅行などと一緒にいた3人の友人の年2回の定期的来訪や親戚の来訪等がある。都度家族の了解を得て面会を受入れている。春・秋季毎のドライブで車窓から桜や紅葉鑑賞を介護度別に複数回実施して、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がうまくパイプ役となり、利用者同士の関わり合いが増えるように努めている。			

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お電話やメール等でご連絡していただいている御家族様にも、相談対応やフォローを行っており、施設側からの適切なアドバイスも行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の生活動作、会話、表情などから気づきを職員間で申し送りをして把握、共有に努めている。	本人の日常の会話や家族等の情報から思いや意向の把握に努めている。また就寝中の寝言からヒントを得ることもある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの言葉や、御家族からの情報、ケアマネジャーからの情報により、おおむね把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録から読み取ったり、申し送りノートを活用して職員間で共有、把握するようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の心身の変化に伴い、職員間で話し合い、ご家族との相談を経て、介護計画の作成をするように努めている。	2年前から介護ソフトを導入している。個別介護記録や申し送り帳・職員の意見等を個々に分析し現時点でのニーズを抽出し、現状に即した介護計画を作成している。見直しは通常6か月毎に行い状態変化時は都度行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、個別介護記録などにより、情報を共有し、実践に役立させている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科、訪問診療を個別に受け入れる体制や、出張による理美容、機能訓練をする体制をとっている。			

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	5類移行後ではあるが、現状ではなかなか地域資源を活用出来ていない状況となっております。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が定期受診に付き添われるが、必要に応じて職員が対応したり、同行してドクターに説明している。また、訪問診療のドクターにも説明して協力も得ている。	在宅時からの継続医受診の方は主に家族が対応し必要時は職員が同行し説明している。ホームのかかりつけ医及び24Hオンコールの看護師は月2回来訪している。訪問歯科医月1回・作業療法士週2回の訪問がある。法人の他施設の看護師からもアドバイスを受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内別施設の看護師にアドバイスをしてもらったり、処置してもらっている。また、訪問診療の看護師からもアドバイスをいただくこともある。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・病院には速やかに情報を伝え、治療の役に立つように努めている。 ・相談、連絡も必要に応じてすぐ対応できるようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療との連携で事業所ができることを十分にお話した上で、終末期の看取り支援ができるのかもはっきりお返事する。	医療行為が無ければ看取りを行うホームの基本方針がある。重度化した場合医師から家族に説明して、家族の意向を基に対応している。ホームでの看取り希望の場合は、医師・看護師・職員が家族の協力の下、チームケアで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを全職員に周知させてミーティングでも話し合っている。また、状況に応じて同敷地内別施設のスタッフにも協力を得るようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練や避難訓練を通じて、利用者の状況に応じた避難方法を学んでいる。また、近隣の方々との協力体制もとれている。	5月には消防訓練・11月は夜間火災想定避難訓練を実施した。他に業者による年2回の消防機器点検がある。5日分の備蓄及び近隣との協力体制も築かれており、4月に向けてBCPIは法人本部で策定中である。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の声掛けにも敬う気持ちを忘れず、プライバシーも考慮して個人的な事柄は耳元で声掛けをするように気を付けている。	個々の人格の尊重を基本に、丁寧な言葉遣いや名前は「さん」付けの呼びかけ、排泄や入浴時には羞恥心に配慮した対応や言葉掛けに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との信頼関係を築き、心を許してもらえるまでになり、話しやすい関係を作ることを第一優先にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちを第一にして、納得してもらってから誘導、行動する形をとっている。また、本人から申し出等があれば、ご希望に沿うように介助・支援する形にしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を一緒に畳んだり、鏡を見ながら髪をとかしたり、小物(アクセサリ)などでおしゃれしてもらったりしている。 これまでの関係性を築き上げてきた上で、本人の好み・趣向を考慮して服などを提供している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・現状では台所内で立位での調理や盛り付けが難しい状況な方が多いので、自席でのテーブル拭き、お手拭きの準備なども声掛けしてやっていただくようにしている。 ・レク(誕生日会)などのお菓子やケーキなどの盛り付けをしていただいている。	炊飯と汁物はホームで行い、副食は業者から冷凍で届くため加温し個々に盛り付けをしている。出来る方はテーブル拭き等を行っている。また利用者も参加して毎月お菓子作りを行い、お茶の時間に美味しく頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下機能を見ながら、食事の形態や量を考えて補食したり、水分摂取にも気を付けている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは毎食後全員に声をかけて行っている。歯科医にも定期的に診ていただき、アドバイスを受けている。就寝前には義歯を回収し、洗浄剤を使い洗浄している。			

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の排泄パターンや習慣を把握した上で声掛けして誘導するようにしている。行動パターンで排泄を読み取り、介助に間に合う事もある。	トイレでの排泄を目指し、個々に合わせ声掛け・誘導している。夜間はポータブルトイレを使用する方もあり、排泄の自立に向けた支援を行っている。意思表示の難しい方には時間毎に声掛けしている。オムツ使用の方にはベッド上で排泄介助をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を多くするように取り組んでいる。適時便秘薬(下剤)を使用したり、便通を促す食べ物を積極的に取り入れるようにしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	通常午前中に入浴する形だが、体調・希望により夕食後や午後でも対応する形はとっている。	週2~3回の午前中の中入浴を基本としている。高齢化により浴槽を跨げない方には足元は足浴をしながらシャワー浴で対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間でも眠そうに(傾眠)しているのであれば、居室ベッドやフロアソファで横になって休んでもらっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬実行のチェックをして忘れないように努めている。また、飲み込みの状態を考慮して薬の形状も考えたりしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食前・食後のテーブル拭き、おしぼり(お手拭)の準備、洗濯物たたみや洗浄後の食器拭き等はお願いで手伝っていただいている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	状況や時間帯等を考慮して、可能な範囲で施設外や中庭・畑や敷地外などを散歩している。	日常的に、敷地内の中庭やホーム周辺の散歩をしている。桜や紅葉等の季節にはドライブで、介護度別に日を改めながら複数回出掛け、車窓から鑑賞している。	アンケートによれば運動や外出に関しての方針や説明、外出について「説明が無かった、わからない」の回答が、半数ほどある。今後の情報提供等についてご検討頂きたい。	

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>コロナ感染防止や他の感染症防止の観点もあり、買い物に出かけるという事は行えていない状況ですが、本来は施設のお金(買い物に使いお金)を所持していただき、買い物を楽しんでもらう形にしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があればリモート面会を含めて、ご家族へは施設側から電話をかけて(連絡をして)、本人と話をしてもらっている。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内、フロアなどには装飾や植物などで季節を感じてもらえるようにしている。様々なBGMを流したり制作物を飾って心地よい空間作りに気を配っている。</p>	<p>廊下や居間等の共有の空間は、音・光・温湿度等に配慮されている。居間や廊下の壁面には利用者の作品や季節の花等が飾られている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアではメインテーブルの他に、ソファなどを2箇所配置して気兼ね無く、くつろげるようにしている。 本人からのご希望があれば、別室(和室)でくつろげるようにしている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の使い慣れた家具、装飾品、ぬいぐるみ、写真等は自由に持ち込んでいただいている。</p>	<p>各居室内は、在宅時から使い慣れた家具等を持ち込み、使い勝手良くまた安全性を考慮した配置となっている。職員は部屋の掃除を利用者と一緒に行うこともあり、整理整頓に心掛けている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>・(御家族の了承を頂いた方の)居室のドアなどに名札を貼って、御本人に確認(認識)してから入ってもらったりしている。 ・浴室やトイレもわかりやすく表示して廊下等も手すりを使って安全に歩いてもらっている。</p>		